

「故郷は変わったのか」－反対質問①－

「変わらない」側から「変わった」側への反対質問（1）

司会 作戦をやめてください。では、変わらない側の反対質問を始めます。時間は8分です。

（変）変わった側 （不）変わらない側

渋谷（不） 122ページの11行目に、「その美しさを思い浮かべ、その様子を言葉に表そうとするとその影はかき消され言葉を失われてしまう。」と書いてありますが、故郷が変わったのなら言葉になって出てくるのではないのでしょうか。

岩佐（変） 僕たちが考えたのは、この場合はあくまでも自分がもっていた故郷と今の故郷があまりにも違うからです。その差から、言葉にもできなかったと考えました。

矢崎（不） 次の質問に移ります。123ページの2行目に、「もともと故郷はこんなふうなのだ。進歩もないかわりに私が感じるような寂寥もありはしない。そう感じるのは自分の心境が変わっただけだ。」というのは、事実上、故郷そのものは変わっていないということではないのでしょうか。

高橋（変） 「こう自分に言い聞かせ」とありますが、これは自分の中で少しでも変わったことがあるから言い聞かせる必要があって、最初から変わっていないと思えるのであれば、言い聞かせる必要はないのではないのでしょうか。

石部（不） 変わってないと自分に言い聞かせたのは、故郷が変わったと思ったのは自分の心境が変わっただけだと自分で気付いたから、その自分の勘違いを自分で認めたから言ったと考えられるのではないのでしょうか。

岩佐（変） それならば、本当に変わったことを自分の心境が変わったということだけでおさめてしまいたいという考えがあったから、自分の心境が変わっただけだと自分に言い聞かせたのだと思います。

矢崎（不） 次の質問に移ります。もしも、あなたが「わたし」だとして20年も故郷を離れていて、その故郷を片時も忘れずにその記憶イコール美しく懐かしい故郷の姿としてとらえていただけたと、灰色の冬の故郷とはイメージがかけ離れていると思い込んで、本当は変わっていないのに変わったととらえてしまうのではないのでしょうか。

菅野（変） 「わたし」は冬の頃に住んでいたこともあるので、そのぐらいならわかると思います。

石部（不） 昔「わたし」が住んでいた頃は、ルントウとの美しい思い出が頭にあったから冬のときも楽しく思えたかもしれないけど、長い年月が経ってルントウが変わってしまっただけで「わたし」も冬の故郷が暗く見えてしまったのではないのでしょうか。